

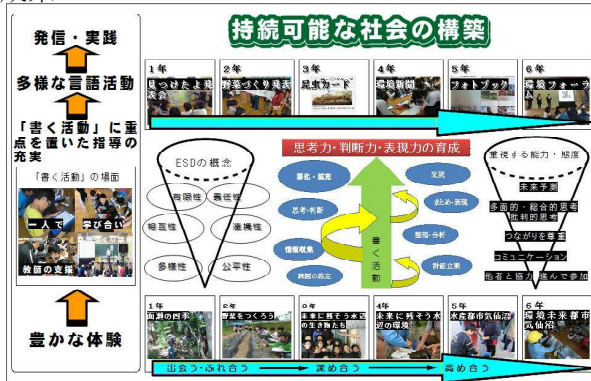
# 平成26年度 第2回気仙沼ESD/ユネスコスクール実践報告

<b>学校名</b>	面瀬小学校	<b>主なESD領域</b>	環境 地域 防災 エネルギー
<b>テーマ</b>	人とつなぐ 自然とつなぐ 未来へとつなぐESDの推進 ～地域に根ざした体系的な探究型環境学習プログラムの改善・開発～		
<p><b>1 本校のESDでめざすもの</b></p> <p>(1) ESDのねらい</p> <p>地域の人とかかわり、自然とふれあいながら、「ふるさと気仙沼」への思いや考えを深め、表現できる「持続可能な社会の担い手」としての児童の育成を目指し、人とのつながり・自然とのつながり・未来とのつながりを重視する言語活動の充実を図った環境学習プログラムの工夫を改善を通して、児童に「主体的に学ぶ意欲」「自ら考え、表現する力」「実践しようとする態度」を育成する。</p> <p>(2) ESDで育てたい資質・能力</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 課題を共感的に受け止め、協力し合って追究・解決する。</li> <li>② 様々な情報や個々の思い・考えを共有する。</li> <li>③ 学習を単なる体験に終わらせず、物事の本質を探ってみ極めようとする。</li> <li>④ 地域の人材や環境、歴史、文化などについて理解を深め、適切に活用する。</li> <li>⑤ 地域人材や関係諸機関とのつながりを大切に、自らの学びに生かす。</li> </ol> <p><b>2 今年度のESDの概要</b></p> <p>(1) 実践の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 校内研究との関連                     <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         校内研究主題  <b>人とかわり自然とふれあいながら「ふるさと気仙沼」への思いや考えを深め、表現できる児童の育成</b>                          ～人とのつながり・自然とのつながり・未来とのつながりを重視する言語活動の充実を図った環境学習プログラムの工夫と改善を通して～                     </div> </li> </ol> <p>ア 研究主題のとらえ</p> <p>東日本大震災によって被災したふるさとの復興に向けて努力している人々の姿、そして、自分たちが住む地域の豊かな自然環境潤してきた森・川・海につながりについて、友だちと協力し合って探究したことを基に、「ふるさと気仙沼」の今やこれからについて熟考し、自分の思いや考えを理由や根拠を明らかにしながら、筋道を立てて分かりやすく表現し、相手の立場や伝える目的に応じて意欲的・主体的に発信できる児童を育成することと捉えた。</p> <p>イ 副題のとらえ</p> <p>児童が、これまでの経験を生かしながら、下記のような人・自然・未来とのつながりを意識しながら、持続的・双方向的に探究活動に取り組もうとする意欲や態度につながる言語活動の充実を図ることと捉えた。</p> <p>ウ 生活科・総合的な学習の時間の改善 (改善の視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域人材や専門機関との打合せを密に行い、意図的・効果的な活用を図る。</li> <li>・ 復興の情報等を能動的に受け止め、情報収集や取材を基にした体験活動や地域人材の活用を図る。</li> <li>・ 教科（特に国語科）との関連を明確にし、学習した内容をしっかり理解したり、技能を確実に習得したりすることによって、児童が自らの学びに活用できるようにする。</li> </ul> <p>(2) 今年度、特に工夫・改善したこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 体験からまとめの段階までを見通した多様な言語活動を組み合わせ、意図的・計画的・継続的な活動を展開させることによって、体験が、物事の本質を探ってみ極めようとする一連の知的営みになる探究的な活動になるように努めた。</li> <li>② 各教科（特に国語科）との関連を指導計画に位置付け、言語活動における指導内容の充実と指導効果の高揚を図った。</li> <li>③ 第三者への発信や外部との交流の場を工夫して、言語活動における児童の変容を客観的に評価し、児童の思考力・判断力・表現力を確実に高められるように努めた。</li> </ol>			

### 3 「国連・ESD 10年」を振り返っての成果と課題

(1) ねらい、及び学習内容（活動プログラム内容）の視点から

#### ①成果



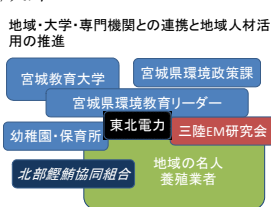
児童や地域・環境等の実態に応じて「地域に根ざした探究型環境学習プログラム」の工夫・改善を図ってきたことにより、ねらいを達成するための標準的なプログラムの確立を果たすことができたと思う。東日本大震災の影響によって、活動内容の変更を余儀なくされた時期や学年もあったが、地域の復興状況に応じたプログラムに修正したり、地域人材や専門機関との連携を強化したりすることもできた。10年に及ぶ継続的な取組によって児童には、地域の人や自然を大切にし、自分にできることを進んで行おうとする態度が、確実に育っていると感じている。

#### ②課題

- ・ 地域人材や専門機関との中・長期的な連携を踏まえた指導計画を吟味する必要がある。
- ・ 6年間の活動を通して目指す児童像を一層明確にし、学年や個々の実態に応じた支援を確実に行う。

(2) 指導計画、及び指導体制、指導方法の視点から

#### ①成果



昨年度開校30周年という節目や、震災からの復興という地域社会の課題を背景に、地域人材や専門機関を効果的に活用することによって指導体制が充実し、学習内容の専門性や課題追究、まとめの質を高め、児童がより主体的に活動できる指導の可能性を広げることができた。

#### ②課題

- ・ 児童の興味・関心に沿った活動を展開するために、一層の人材発掘・連携が必要である。
- ・ 1年間または6年間の活動の中で、自分たち生活や社会が、地域や専門機関等多くの方々に支えられていることを、児童にしっかりと感じさせたい。

(3) 育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容、評価の観点から

#### ①成果



外部（保護者や地域人材、専門機関等）への発信の機会を積極的に設けると共に、外部からの評価を受けることによって、発信が児童と外部との双方向的な学びになったと考える。また、外部から評価を受けることによって、児童の変容を客観的に評価することもできた。児童は、それらの評価を基に、自己の活動や成長を振り返って、自己評価したり、互いのがんばりを認め合ったりしながら、実践につなげていこうとする意欲を高めていた。

#### ②課題

- ・ 教師による評価の観点を児童と共有することによって、子ども自身が、活動をよりよく振り返って、自分や友だちの良さ・改善点を適切に評価して、自分の成長をより客観的に振り返ったり互いにアドバイスし合ったりできるようにする。

### 4 今後のESDの方向性

～主体的・探究的・協働的な学習の充実、アクティブ・ラーニングの推進等～

- (1) グループワークによる豊かな発想や思考力・実践力を育成するために、IT 機器やデジタルコンテンツ等の整備や積極的な活用に努める。
- (2) 活動の推進をサポートするファシリテーターの役割を重視し、地域人材や児童の実態に応じて、主体的な学びができる活動場面の設定や展開等について工夫・改善を図る。